安 全 の 誓 い

北海道建設業労働災害防止大会は、昭和４０年に第１回大会を開催し、本日第５７回を迎えました。

先人のたゆまぬ努力により、建設現場の安全水準は確実に向上し、労働災害は短期的には増減があったものの長期的には大幅に減少してきました。

昨年の道内建設業の死亡労働災害は、前年より６人減の１４人となりましたが、それでも全産業の死亡労働者数の３割近くを建設業が占めていることは誠に残念なことです。

本年度の全国安全週間のスローガンは、
「持続可能な安全管理　未来へつなぐ安全職場」
です。これには、「働く高齢者が増加する等の就業構造の変化や新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う社会情勢の変化等に対応し、将来を見据えた持続可能な安全管理を継続していくことにより、すべての働く方が安心して安全に働くことのできる職場を実現する。」という思いが込められています。

建設業界は、技能労働者の不足、建設従事者の高齢化、長時間労働による健康リスクの増加など就業構造の変化を踏まえて、課題の解決に向けた取組みを進めなければなりません。

また、新型コロナウイルスは、全世界を巻き込んで猛威を振るい、道内でも人命にかかわる多大な被害が出ていることから、建設業で働く方の健康を守る取り組みを推進していかなければなりません。

本年度は、第１３次労働災害防止計画の４年目となります。

５年間で死亡労働者数を 20%減少し、死傷者数を 5%減少するという目標を達成し、さらに建設業で働く方やこれからを担う世代が、希望を持って働ける安全・安心で魅力ある職場を実現するため、建災防会員企業をはじめ関係者が一丸となって安全衛生管理活動に取り組むことをここに誓います。

令和３年６月２４日

第５７回北海道建設業労働災害防止大会